

岩音頭・真鶴音頭保存会

踊り継がれる 想い

「真鶴音頭」や「岩音頭」と言えば、真鶴町ではお馴染みの民謡として受け継がれています。

かつて地元の青年会などが踊り継いでいた「真鶴音頭」や「岩音頭」を再興するために平成27年6月に岩音頭・真鶴音頭保存会として、発足しました。

コロナ禍で踊りを披露する場合は減ってしまいましたが、練習は変わらずに続けています。

今回、岩音頭・真鶴音頭保存会を取材させていただき、歴史を紡いでいただいていることに感謝し、真鶴町にこれからも踊り継がれていくことを願います。

問

政策推進課 内線312

町の体協のレクリエーション部で踊りを教え始め、かれこれ40年になります。今では小学校や中学校などでも音頭を踊るようになり、町の総力をあげた盆踊りでも老若男女がやぐらを囲んでくれています。これまでに振付を教えた人数は数えきれません。

コロナの影響でここ数年は、イベントなどで踊る機会が減ってしまっています。今年も町民文化祭が開催され、たくさんの方に観ていただけたことが嬉しかったです。

岩音頭と真鶴音頭は、とても良い踊りであり、このまま無くしてはいけません。思い、踊り続けてきました。今は、お子さんたちに一番踊ってほしいと思っています。

練習にも気軽に参加していただけたらなと思っています。

これからも一人でも多くの方に岩音頭と真鶴音頭を知っていただけるように活動していきます。



岩音頭・真鶴音頭保存会
会長

森 操 さん
みさお



岩音頭・真鶴音頭保存会
副会長

福祿 久美子 さん

岩音頭と真鶴音頭がずっと踊り継がれるような仕組みができるといいなと思っています。

繋がっていくように町の中で呼んでいただけたら、どこへでも踊りを教えにいきます。これからも広げていきたいと思っています。

長い間、老人クラブの会長をやってきました、真鶴町のために尽力してきました。

引き続き、真鶴町の役に立てることをしていきたいと思ったりと、岩音頭・真鶴音頭保存会発足の話があり、副会長として活動しています。この会を通じて踊りが長く受け継がれることを願っています。



岩音頭・真鶴音頭保存会
副会長

青木 又一 さん